

## 令和3年度倉敷市立美術館協議会 議事録

1. **開催日時** 令和3年7月30日（金） 10時～11時30分
2. **開催場所** 倉敷市立美術館3階第1美術教室
3. **協議事項**
  - (1) 令和2年度事業実績報告
  - (2) 令和3年度事業計画
4. **出席委員** 森川政典委員(会長)、玉置里美委員(副会長)、尾崎勝也委員  
後藤田恵子委員、近藤千晶委員、竹内治美委員、森山知己委員
5. **会議録** 別紙のとおり
6. **出席職員** 井上教育長、三宅生涯学習部長、坂田美術館長  
杉野主幹、佐々木主任、前田学芸員、尾上学芸員

## 令和3年度倉敷市立美術館協議会 議事録

〔令和3年7月30日（金） 10時～11時30分〕

**開会のあいさつ** 三宅生涯学習部長より開会のあいさつがなされた。

**新委員の紹介** 新委員として事務局より尾崎委員の紹介を行った。

**議 事** 前回の協議会における指摘事項に対する美術館の取り組みについて、事務局より説明を行った後、議事の進行を事務局より森川会長に委ね、森川会長により会議が進められた。

### （1）令和2年度事業報告

令和2年度事業報告について、事務局よりパワーポイントで説明。

**会 長：** 令和2年度事業の実績ということでの報告を承りましたけれども、各委員の皆様方から、また、忌憚のないご意見をお伺いできればと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

**委 員：** まず最初に事務局より、前回の協議会で指摘があったことに対して、きちんと対応された報告説明を伺い、本当にご苦労さまです。

それから、天神山文化プラザもそうですが、コロナ禍において利用者が大変少なくなる中運営していくことに、今までにないご苦労があったことと思います。本当にお疲れ様でした。

それから大学として、地域と一緒にあって若い人を育てて地域愛を育てていくというテーマがあるのですが、卒業制作展、また修了制作展を無事行うことができ、大変感謝しております。昨年度は卒業式、また入学式が実施できない中で、自分たちが制作したものが発表できたということ、学生が本当に喜んでおりましたことをお伝えしておきたいと思います。本当にありがとうございます。

それ以外に、この資料の中に記載はありませんが、学芸員実習という形で、市立美術館に学生を受け入れていただいて、地域で地域文化に接し、また実際に物に触って学ぶことができたということで、大変よかったと学生から聞いており、それも感謝しております。

その他、「倉敷っ子美術展」についてですが、本当に素晴らしい労力といいですか、先生方の本当に真摯な取り組みで素晴らしい作品がたくさん集まっているのを、いつも感心して拝見しております。

子供たちがこの倉敷で育って、倉敷の美術館の中で「倉敷っ子」を見て、記憶に残

していくということは、コロナ禍で外に出ていけない分、何か地域に対して深掘りができるような機会になっているのではないかと思います。それからご苦労があったということで、美術館の皆様にご苦労さまでしたということをお申し上げて、終わりにしたいと思います。

**委員：**今はこうした環境下でなかなか外に出にくく、自宅で美術館のホームページを拝見することが多くなりました。ホームページの内容も以前より充実し、新しくなっていて嬉しく拝見しております。

一つお尋ねですが、春の院展や倉敷っ子美術展など、毎年継続して開催されている展覧会について、入場者数を今年度だけでなく、前年度との比較や年度毎の推移などを資料に掲載していただければ、判りやすいように思います。

本当にこれだけ大変な中で、実技講座や教養講座、作品展など催し物をして、50%の定員をキープしていますが、コロナ環境下でどのような対策をされていらっしゃるのでしょうか。また、新たな企画の検討をされているのでしょうか。

例えば、私どもの倉敷市文化連盟は、大変残念ながら去年度の事業がほとんど中止になってしまいました。会議はまだ静かに開催できますが、お茶会や舞踊、コンサートなどは中止で、文化活動として残念ながら足踏みを強いられています。それでも今年度は、研修会や講習会をズームで開催させていただいています。

倉敷市国際交流協会も、今まででしたら、国を超えて移動したり、海外から倉敷に招いたりして、いろいろ民間交流もしていましたけれども中止になりました。それでもめげないで、国際交流協会はズームで配信をして、文化面はノンストップで進んでいます。美術館はいかがですか。

**美術館：**まず、恒例の展覧会の入場者の推移についてですが、昨年度と比べて、入場者数は少なくなっています。院展の方は、令和元年度は4,000人ほどでしたが、昨年度と今年度は1,000人余り減少しております。

倉敷っ子美術展の入場者数は、今年度は、6,000人ちょっとで、その前の年度が7,000人ぐらい、900人ほど減少しております。やはり倉敷っ子の場合には、平日には学校からの団体鑑賞が非常に多かったのですが、これが大幅に減っています。美術館では事前に学校より希望をとって、人数が多くなりそうな日時だと別の日時に変えてもらうというように割り振りをして、団体鑑賞の申し込みを受け付けていました。全体的には少なめになってきていると思います。

展覧会は通常通り行っていますが、手指消毒や検温、チェックシートへの記入をお願いしています。

実技講座・教養講座は定員を半減して、教養講座では講堂の座席にバツ印をつけ、距離をとるような形で開催しています。

貸館でも各利用団体の方について同様の対策を行っています。人数の制限や消毒、チェックシート記入などをお願いしています。

**美術館：**この状況下では、人が集まるのが悪いという考えもあります。

ホームページがいくらかよくなってきているという委員のご意見もありましたが、まだまだ改善し、ホームページを開けば美術館のことがよくわかる、美術館の裏から表まで見られるような取り組みをしていきたいと計画しています。ホームページ上で「おうちミュージアム」に参加していますが、これは全国の取り組みが楽しめるサイトなので、たくさん子どもたちに見てもらいたいと思います。情報発信としては大きいと思います。

ズームでの展示会などは倉敷市では機器の問題もあるのでまだ導入できておりませんが、将来的には取り組むことになるかと思っています。

ボランティアについてですが、市民と美術館の大きな橋渡しができる存在で、その役割は重要ですが、コロナ下で業務制限しています。どういう風にして美術館とボランティアが一体化でき、施設と市民の方が一緒に美術館を育てていけるか、これから考えていきたいと思っています。

**委員：**ホームページがこれから更に充実してくのを楽しみにしております。

岡山の天神山文化プラザにも時々伺っており、昨日も東中国美術展に伺いました。私の居住地が玉島なのですが、これまでは玉島から家族や友人たちで絵が好きなもの同士集まってJRで行っていたのですが、こうした状況下なので仕方なく車で岡山まで行きました。今回拝見したのは、岡山県、兵庫県、広島県、島根県、香川県の市民の皆様美術展で、頑張って県を越えて展示をしてらっしゃると、熱意を感じて伺ったのですが、もし可能なら岡山までいかななくても、地元倉敷で開催して拝見できるような可能性もあるのでしょうか。

**委員：**おそらく、1階のホールでされていた、東中国自由美術展のことをおっしゃっているのかと思います。全国希望の公募団体である自由美術協会の岡山支部が開催したのですが、岡山と倉敷は距離が近いので、岡山で開催されたものを倉敷でもやるのは難しいかもしれません。

一方で一昨日より天神山文化プラザで、うつわ展という展覧会名でアートの今・岡山という事業を開催しております。その展覧会は県内の他の美術館に巡回しますが、一般の公募団体については難しいというか、各団体の選択によるものではないかと思っています。

**会長：**ありがとうございます。

ほかの委員の方々から何かご意見をお伺いしたいのですがいかがでしょうか。ボランティアの方でもご尽力されている竹内委員、何かお気づきの点等がございましたら。

**委員：**残念ながら、前回の協議会から本日に至るまで1階の受付でボランティアに関わるということが全くできなかったのも、こちらの企画展に対しても本当に関わる機会が一切ありませんでした。とつても残念だと思っています。これはもうしのぐしかないのかなという気持ちです。早くこういった状況が明けてまたもとのように、市民の方々や企画展に関わっている人達と交流できたらいいなと思っています。

**会長：**ありがとうございました。

本当に何かと、閉ざされたような感じがしていますが、気持ちは繋がっていますから、何とか乗り越えたいですね。

**委員：**倉敷っ子美術展のような地域の方が集まる展覧会は、地域の美術展として大事ですね。岡本唐貴展も高橋秀先生の展覧会もとてもよかったです。

今日もコレクション展を拝見し、工藤哲己や岡崎一郎、遙邨もじっくりみると本当に面白かったです。地域の美術館として、地元の作家を紹介する事業はとても大事だと思います。コロナ下でもありますし、どのように情報を発信していくかということや、もっと若い新しい世代を惹きつける美術展をどのようにするか求められていると思います。

私は今回の協議会で委員の任期が終わりますが、ぜひ映像の分野や美術館の情報をSNSなどで企画できるような、これまでと違う分野の若い人を芸術科学大学の教員もしくは学生から新しい委員に入れられたらいかがでしょうか。新しい展開が求められているように思います。

**美術館：**よいご提言をありがとうございました。従来の伝統的な美術だけでなく、イラストやアニメなどは世界にも評価されているので、そうしたジャンルの美術もこれから取り入れていくべきでしょう。

運営に関して新しい人をとつご意見がありましたが、倉敷芸術科学大学は、倉敷市内に芸術系の大学を美術のほうに専門のある学校ということで、倉敷市が呼びびして来ていただいた経緯があるので、美術館としてもお世話になること、またお世話をすることができるかと思っています。

行政のフォローが十分でないため、倉敷市と特に関りを持たないまま、学生が卒業後倉敷を離れてしまいます。これは行政にとつても学生にとつてももつたいないことで、倉敷に来ていただいた以上は、ずっと倉敷にいたいと思つただけのよう、学生さんともこれまで以上によい付き合いをしていきたいと考えています。

大学にもそれぞれの分野の先生がいるので、ギブアンドテイクでよい関係を築いていき、新しい委員をお願いするにあたっては考慮にいたいと思います。

**委員：**もちろん若い先生もお考えいただければと思いますが、院生など学生を委員の候補にするという線はないでしょうか。

**美術館：**まったく新しい感覚を持っているという意味では考慮すべきかもしれませんが、協議会などはある程度実績を持っている方を求める部分があるので、ご意見もあわせもちながら考えたいです。

**委員：**皆様のお話を聞いていると、委員の皆様が美術館をよくしようという思いが伝わってきてよいと思います。自分が聞きたいことも皆様が仰っていました。

コロナの状況下で良い点はズームによって世界がすごく広がった部分があります。

昨日も東京のセミナー会社の講義にオンラインで参加しましたが、外に発信していきけるという点でズームはとてもよいと思います。オンラインで美術館の裏側も見られたらとても楽しいだろうと思います。

今はホームページやSNSなど、色々活用できると思います。倉敷市の情報発信課に、倉敷市公式のツイッターには、人が見えてこない、その場で打った内容がそのまま転送されているみたいな感じなので、もう一度言葉にしてくれないと伝わらないとお願いしたりしましたが、こういうツイッターやSNSを利用すると、もっと本当にいい美術館になるでしょう。

昨日の講義はコミュニティデザインについての内容で、地域の人に参加してもらってみんなの意見を取り入れながら町を作っていく事例が紹介されていました。兵庫県の方の図書館では、図書館に来る人は、本を読みに来る以外にどんな目的があるかヒアリングをして運営に取り入れていました。山口県にある柳井市の図書館では、普通静かにしなければいけない図書館で、おしゃべりができてもいいなというおしゃべり図書館という取り組みをしていて、発想がいいなと思いました。美術館をよりよくするにはいろんな取り組みがあるでしょうが、市民にとってどのような美術館があったらいいか意見を集めていくといいと思います。

**美術館：**お話にありますように、市民からいろいろなご意見をいただきたいと思います。

私は柳井市に研修に行ったことがありまして、あそこは市長も含め、新しいことをしていると感じました。参考にしたいと思います。

**副会長：**コロナ下どこにでかけるにしても、その施設が開いているかホームページを確認してから行くようになりました。市立美術館のホームページは、この一年で大変立

派なものになったと思います。動画もたくさん観られるし、映像作品もあり、また、倉敷ケーブルテレビと一緒に池田遙邨の作品をたくさん紹介していました。

「おうちミュージアム」は全国につながっていて、北海道から沖縄までたくさんの美術館、博物館をみることができるのは大変有益です。特に家でじっとしている人にとっても、ここにいきたい、という美術館、博物館があればすぐ観られるのがよかったです。美術館のホームページもこれから充実していくということで、これからも楽しみにしています。

作家の立場から言うと、展覧会や個展は1年以上前から計画し、大きな作品の制作には何か月もかかるのですが、一昨年から展覧会が何度も中止になっています。1回ぐらいならまだしも、2年続くと準備してきた者としては心が折れそうになります。

私たちのような中堅作家にとっては、それでも制作したことについては確実に何かそこから学ぶこともありますし、それはそれで切り換えができるのですが、若い人たちはどんな風に思っているのだろう、やめてしまう人がでなければいいのにと心配しております。委員の先生が、できたら若い人にスポットを当てて、活躍の場を与えてほしいとおっしゃいましたが、私も同じ意見です。

年配の方たちは、結構、自分たちでやっています。これは和気町の例ですが、発表の場がなくなった人たちが、自分の住んでいる近くの病院に院内ギャラリーというのを開設して、そこを発表の場にしたり、町役場にも展示スペースを設けてもらって、そこでも発表していました。銀行なんかにも、ちょっとした展示スペースを作ってもらって、年配の方たちはすごく積極的に動かれているのですが、またこれが、何ヶ月も先まで予約でいっぱいだそうなのです。そういう話を聞いていたら、年配の方たちはどんな状況になっても結構、自分たちのやりたいことを、何とかこう活路を見出やっっていられるものだなと思っているのですが、若い人はどうなのか、心配な所です。森山先生、よろしければ、若い人たちがどんな状況か教えていただければと思います。

**委員：**私には大学の関係者という立場と、天神山文化プラザの企画委員という立場、二つ立場があります。来年度の事業計画の話の後ぐらいにお話ししようと思っていたのですが、話の流れの中で申し上げますと、実は大学も大変な危機意識を持っています。というのは、高校生が我々の時代からいうと半減してしまい、高校の統廃合がもう県の方から言われていて、定員の8割を切るようなことがあれば、統廃合対象とするとか、次年度の募集をやめなさいといった指導が来るような時代がもう今来ているということを、地域に出て行ってお話をさせていただくと何うことがあります。

ということは、若い人たちがかなりこれから減るということがまず考えられます。それから天神山文化プラザの例で言うと、今副会長がおっしゃったように、これまで継続していたいろんなグループ展や展覧会が中心になりました。それが2年続くと、やはり3年目本当にやれるかどうか。高齢者の方が元気という話が出たのです

が、今 60 代後半から 70 代の方々が、もうちょっと上になってくると、その下の 50 代 40 代の方々が、働きながら何かをやるといったことがだんだん難しくなる中で、その団体の継続性が今大変難しくなっています。それから、美術展で言えば公募団体等に出品する方がどんどん減っているというのは公募団体の意義が変わってきているのではないかという話もあります。

そんな中で、美術館体験であるとか芸術を学ぶことによって次の時代の競争力を得る STEAM 教育というようなことも世界で大きく取り上げられる中で、これだけの文化施設を持っている倉敷のポテンシャルは大変高いと思います。

それをいかに子ども達で、それからまた大人たちが、気持ちが萎えることなく継続できるかということは、県の方でも同じようにやはり取り組む必要があるという話が出ています。

大学としては、倉敷という町に招いていただいて倉敷という名前がついた大学ですから、この地域で若者を一緒に育てようということで、学生にこの地域に愛着を持ってもらい、ここに住んでもらう、といったことも考えながら、地域と密接に、地域に育ててもらおうような教育をやれないだろうかという話があった中で、新学長が来まして先日 10 年後のビジョンを立てました。その中で、アート&サイエンス教育というテーマを挙げ、芸術と科学という言葉がついた大学というのは、実は本学が全国で唯一なので、科学と芸術、ふたつのマインドをもった学生を育てて、地域に愛着を持つという形でやっていこうというようなことになりました。

それから利用者も高齢化している中、いかに展覧会をやりやすくするかというようなことを天神山の方でも今考えています。

答えになったようになっていないような話ですが、大学も大変危機意識を持っておりまして、高校生が半減するということは大学の淘汰があるということです。

また高梁川流域全体で考えても、倉敷市が果たす役割は今後非常に大きくなっていくでしょう。大学も同じように流域全体での役割を持ちながら、以前は COC という事業がありましたが、これからも何か考えながらやっていきたいと考えております。

厳しい状況なので地域の行政と協力しながら、この土地で暮らす、発表するという意識を大学として強く持とうとしていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

**会 長：**丁寧なご説明ありがとうございます。次の 3 年度の事業計画のご説明がまだです。そちらの方を事務局よりしていただいて、あとまた皆さん方ご意見か補足があれば伺いするというところでよろしいですか。

## **(2) 令和 3 年度事業計画**

令和 3 年度事業計画について、事務局より資料に従って説明。

**会 長：**令和 2 年度でもいろいろ意見をいただいておりますが、令和 3 年度の事業計

画ということも含めて、またご意見を伺いたいと思います。

**委員：**先ほどの事業報告でスライドを見た時に思いましたが、展示会場があまり美しく見えないのは予算のこともあると思いますが、美術館をメンテナンスしながら維持していくという話もありましたので、壁面ももう少し対応していただければと個人的には思いました。画面を見た時に壁面が映ってしまうのは、情報発信の面からも辛いところがあるのではないかと思います。予算もあることですのでよろしくお願いいたします。

それから、小学校がGIGAスクール構想によりタブレットを使って、デジタル化をどんどん進めています。これから10年先それが本当に当たり前になったときに、実際の体験というのが大変重要になるというふうに、大学では考えています。何かを作っていく人間にとって、体験というのは非常に大切です。

また、たまたま美術館に来た人たちが、よかったな、綺麗だったと思う空間を作っていくのも大切だと思いますので、最初に壁面のことを言いましたが、よろしくお願い致します。

**美術館：**壁面改修の要望については、以前から利用者からも協議会委員の皆様からもいただいておりますが、改修にはある程度の費用がかかります。ここで言うべきかどうかとも思いましたが、実は美術館周辺施設の再編計画が公に出ています。具体的には、隣接する中央図書館を移転して令和7年度の新たな開館に向けて準備するという事です。このことは議会や市民に公開されています。自然史博物館も移転することになるので、中央駐車場を含めて、美術館についても大きな手入れが入る見通しです。それに合わせて内部の改修を行う予定ですが、皆さまのご意見は改修にあたって大きな後押しになるので、ぜひ意見をいただきたいと思います。

**会長：**ありがとうございます。

ところで皆様が出された意見をもとに倉敷という所から少し俯瞰して見ると、今、奈義町現代美術館に行く若いお客様が増えていて、カップルや女性の友達同士でドライブがてらに行っているという話を伺いました。コロナの状況下で県外に行けないから、県内でちょっとドライブがてらに行けるということにマッチングしているのかもしれませんが、現代美術館の岸本館長によると、館内で写真を取れるところを作ったのだそうです。作家の方々にご協力をいただいて撮影可としたということで、写真スポットになっているようなのですね。

それを大原美術館にかえすと非常に難しく、なかなか自由に館内では取れないのですが、成羽美術館や瀬戸内市立美術館の館長からお話を聞くと、写真スポットを少しずつ増やしていったとのことでした。

だから、本来の倉敷市立美術館として持っている物語とかコンセプトや考え方を決して外すことではないですが、先ほど委員の言われた、SNSなどを使っての部分でどうまくのっていけるのかというところは、今後また一つずつ皆さん方と検討していく必要を感じました。

大原美術館ということで私が言わせていただくことも誠に恐縮ですが、先日倉敷市と包括連携協定を締結させていただきました。高梁川流域での市町村の域を越えての連携、教育観光、文化含めて様々な事業に携わっていきましょうという大きな意味での包括連携協定ということで、具体的に中身はそれぞれ詰めていくこととなりますが、倉敷市民の皆様との取り組みも、教育委員会としての取り組みの可能性の一つとして、新しい動きが出てくればいいと私は感じております。

今大原美術館もかなり厳しい経営状況でございまして、皆様から様々な支援をいただいているのですが、ここで改めてゼロスタートということで考え方をリセットしています。90年の歴史が培ってきたからこそ、よかったことと、駄目だったことを振り返り、新しいことができなかったのはなぜかということに立脚して、民間は美術館であることを忘れることからスタートすることを考えています。展示や修復、教育が一番大切な所ですが、美術館ということをまず忘れて、アイデアを自由に出してまとめていくという取り組みを、少しずつですがやっております。

そういう点から倉敷市立美術館の皆様との新しい連携も、今までできなかったからできないということにせず、これから新しい発想で、若い人を引きつけるためにはどういうアイデアがあるかということで、専門のスタッフの方々もいらっしゃれば、学生の皆様の協力体制もあるでしょうし、何かそういう意味で、これからこの協議会で話をされるのが、倉敷の大学それから市立美術館と連携していける、大きなきっかけや取り組みになればとますます期待しております。

大原美術館では「みんなのマイミュージアム」というスローガンを立ち上げて、ロゴマークも作ったのですが、美術館がジェンダーを超えて、年齢を超えて、地域を越えていろんな方々と協働していきたいという思いで、この不可思議な形を作りました。

倉敷市立美術館はみんなのミュージアム、大原はみんなのマイミュージアムというお互いのスタンスの違いはありますが、引き続き連携を深めていきたいと思えます。

**美術館：**倉敷市と大原美術館は提携して、一緒に手を取り合っていきましょう。市としても大いに期待させていただきたいと思えます。倉敷市の中に大原美術館と市立美術館と、美術館が二つあり、一方は全国的に高名な美術館で、市美はどういう立ち位置でいけばいいか悩んだこともあります。大原は大原、市美は市美と、それぞれやるべきことが違うのではないかと、住み分けができるのではないかと考えてい

ます。大先輩である大原美術館から色々と教えていただけるきっかけができてよかったと思います。

**委員：**会長の話を聞いていて思ったのですが、倉敷市でも文化事業が中止になり、次世代のこどもたちをいかに育てるかが課題の中で、元チボリにいて子どもたちに夢を与えてくださった森川さん、それから倉敷市になくはならない倉敷芸術科学大学の森山副学長、こうしたすごい方々がいらっしゃるこの協議会はすごい会議だなあと感動しながら伺っていました。

昔というか最近まで、玉島では毎年5月に円通寺で写生大会がありましたが、コロナで中止になり、玉島の湊まつりも中止になりました。こうした催しには子ども育成の目的もあるのですが、このコロナから、まだウィズコロナ生活が続く環境の中、子どもたちの成長は止まっていないのです。私たち大人社会として子どもたちにどう対処していけばいいのか、総力と知恵を駆使し、この環境下でも育っている子供たちに、文化面で応援ができないものか、今のお話をいろいろ伺って、一番大きな課題として感じたところです。

この協議会は1年に1回開催されていますが、これだけの方々が参加されているので、事業の結果報告だけでなく、再度情報交換や対策ができるような会をご検討いただきたいと思います。

**教育委員会：**会議が年に一回だけというきまりはないので、せめて半年に1回というご要望があればできないことはない話です。お約束はできませんが、その時々テーマ、こうしたことについて意見をききたいというご要望があれば、ズームを使うという工夫もあります。役所がやると型にはまりますが、委員の皆様からこういう話をしたいと会長に話をさせていただいて、ズームで会議をするという流れになると、気軽にできるのではないかと思います。意見を言い合ってできる方がいいでしょう。

**委員：**今の現況での会議のありかたとしては、私ども文化連盟では次のように行っています。まず、パソコンを使つての連携で、それぞれの思っている意見を出し合つて議題を提出します。議題がでたら協議し、決定は対面でします。今一番私が出したいと思っているのは、市立美術館、大原美術館、そして天神山プラザで何かできることがあれば、文化連盟も、若い人や子どもたちを対象とした企画提案をして、新たな環境下でノンストップ子ども対策ができればいいなと思っています。情報共有、意見共有ができればいいと思いますので、ネットワークができればありがたいです。

**委員：**おっしゃられる通りだと思います。私も議員になって会議に参加させていただきましたが、自分なりの提案をしたいと思っています。できれば市美にしょっちゅう遊び

に来て、意見交換できたらいいなとちょっと思っています。今言われた子ども対策もいいと思いますし、そういうネットワークのメンバーにテーマをポンと決めてもらって、参加できる人で意見交換するのもいいと思います。

**会 長**：ズームの利用も一つの方向でしょう。テーマによって今後具体的に検討いただきたいということによろしいでしょうか。コロナのこともあり、皆様それぞれ大変な環境は否めませんが、何とかこれを乗り越えていくために、またコロナ禍の後の新しい姿が見えてくると思いますから、力をあわせて頑張りたいと思います。

今はコロナの影響で海外から来られる方の数も減っていますが、間違いなくこれからはご意見をいただいたような時代になるので、ホームページの改善など課題に取り組んでいただきたいですね。

令和2度の事業報告および令和3年度の事業計画に関して、満場一致で承認された。

## 閉 会

上記のとおり相違ありません。

令和3年9月24日  
倉敷市立美術館協議会  
会長 森川 政典

